

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団 体 用)

I 基本事項

整理番号 1285

事業名	財団法人淡路人形協会負担金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	教育部	生涯学習文化振興課		款	教育費・10款
電 話	0799 - 37 - 3020			項	社会教育費・5項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)		目	文化財保護費・7目
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務		財団法人淡路人形協会寄付行為		
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱		人づくり 知恵あふれ 郷土愛が満ちるまちづくり		
	まちづくりの目標		大好き ふるさと南あわじ【郷土愛】		
	施策目標		地域の歴史を学び、祭や伝統文化に親しみ、語り継ぐことのできる市民を育てる		

II Plan&Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事 務 概 要	目的	対 象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳)			
		財団法人淡路人形協会(500年の歴史を誇る国の重要無形民俗文化財の淡路人形浄瑠璃芝居の保存及び振興を図り、もってわが国の文化の発展に寄与する。)			構成人数(人) 52
		活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)			
		淡路人形を地元の皆さんにもっと興味を持って観てもらいたい。各種祝いの席で「えびす舞」を披露することが当たり前のような生活の中に根付いた人形になり、人形のファンだという人が多く出てくるようにしていく。市内中心地で人形常設館を新たに建設し、観光客の増員を図り、入場料の増収を図る。また地元住民が鑑賞に出向いて行きやすい場所でありピーター客を増やしていきたい。こうして活性化を図ることによって、保存伝承に繋がっていくことになる。			
	実施内容	(主な事業、活動内容等)			
		本協会では目的達成のために行っている事業 人形遣い、浄瑠璃太夫及び三味線引きの養成 人形浄瑠璃の人形、その他道具類の収集及び保存 人形浄瑠璃に関する調査研究及びその成果の公表 人形浄瑠璃の公演 淡路人形座の運営 人形会館の建設及び運営 その目的を達成するために必要な事業(全国人形芝居サミット等)を行っている。			
団体の概要	(どのような団体か、活動目的、活動内容など)				
	数世紀の伝統を有する古典芸能人形浄瑠璃芝居の保存及び振興を図るために事業を行う。 財団法人淡路人形協会は昭和52年4月1日設立 役員理事9名以上16名以内 監事2名 評議員20名以上26名以内 役員の任期2年 主な構成員 3市長他。 主な活動は 後継者養成(現在7団体へ助成している)。人形座の運営 人形遣い、浄瑠璃太夫、三味線引き養成、人形その他道具類収集・保存、調査研究・その成果の発表、人形会館建設及び運営等々				
	事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input checked="" type="checkbox"/> 補助団体	<input type="checkbox"/> 市役所	<input type="checkbox"/> 市単位 () <input type="checkbox"/> 旧町単位 () <input type="checkbox"/> 旧村単位 ()	
補助金算出根拠	財団法人淡路人形協会一般会計と淡路人形座特別会計とになっている。一般会計は後継者団体育成のために淡路3市から負担金をいただいている。特別会計は人形座の入場料、出張公演他の収入で運営している。不足分を市から負担していただいている。淡路人形座が民営化されたとき、公務員だった16名の人形座員の退職金について確定給付企業年金として日本生命で40/100カ月分の積立をしているが、公務員の場合は60/100カ月分なので、差額を市で基金として積立てることとなっている。負担金額は 3,869千円 20,000千円 2,750千円〔20年度から 3,365千円、は同じ、 については人形協会から繰り入れる〕				
補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成 17 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし				
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)				
	<input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から				

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インパクト	直接事務費 (千円)	26,619	26,619	26,619	23,365
	財団法人淡路人形協会負担金	26,619	26,619	26,619	23,365
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	26,619	26,619	26,619	23,365
	人件費(正規職員)[B] (千円)	6,140	5,980	6,020	6,020
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)	200	200	200	200
	事業量2(事業に要した人数)	1	1	1	1
	年間経費([A]+[B])	32,759	32,599	32,639	29,385
	「構成人数」一人当り経費 (千円)	630.0	626.9	627.7	565.1
受益者人数(52)一人当り経費(千円)	630.0	626.9	627.7	565.1	
経費に関する 補足説明	後継者育成事業への市負担金3,869千円(20年度3,365千円) 淡路人形座運営資金負担金20,000千円 淡路人形座員退職員差額積立金2,750千円(20年度は人形協会から繰入)				

Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 後継者養成の人形協会一般会計部分は妥当だと思うが、人形座特別会計は営業努力してもやはり赤字は否めない。理想は独立採算でいけるようになることである。それには、やはり観光客の増員を図る。また、地元市民にもっと人形座へ足を運んでもらい、リピーター客を増やす。そのためには、市内中心地に新人形浄瑠璃会館を建設し、地域の産業を取り入れ、朝市等を開き、地元との繋がりをもっと深くし、地域の活性化になるよう進めていく。増収に繋がれば、座員を増やし、全国各地へ出向いての出張公演を多くし更なる収入の増を図る。もちろん、地域の公民館で公演や交流を増やし、「私たちのふるさとの宝物」という意識を植え付けていく。常に県・国の補助事業メニューに目をむけ、最大限利用することはいうまでもない。	自己評価 (5点評価)
	3	
必要性	公共性の高低 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 淡路を代表する伝統芸能といえば、淡路人形において他にないと思う。500年の伝統の重みは言うまでもない。先人たちが500年守ってきたものを私たちが500年先、1000年先へ繋いでいくことの責任の重さを痛感する。必要性は非常に大きい。 この度、淡路人形協会・淡路人形浄瑠璃が青少年を対象にした文化活動を行ったことに対して、ユネスコの「無形文化遺産の保護とコミュニティの優良事例」に選ばれ、ますます注目を浴び期待されている。	自己評価 (5点評価)
	5	
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 保存・伝承を更に強化するには後継者グループを増やしていかなければならない。後継者養成事業の一般会計については現状では何とか凌いでいるが、今後、後継者グループが増えてきた時は非常に苦しい。人形座特別会計については更なる営業努力が必要である。新人形会館が地域の中心地に建設されるなら、関係機関と更に連携を図ることで観光客や地元の観客も見込まれ増収に繋がるであろう。	<p>評価グラフ</p> <p>費用対効果 3 必要性 5</p>

IV Action&Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し <input checked="" type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し <input checked="" type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
	協会としての取組みを充実させ、収入増を図る。	同左
(現状維持以外の改善方法)	淡路人形の劇映画の作成 補助事業メニュー 1) 文化庁文化芸術による創造のまち支援事業 2) 学校への芸術家等派遣事業 3) 淡路伝統芸能推進事業 4) 地域人材の活動による文化活動支援事業 5) 南あわじ市観光客誘致支援事業 渋谷フェスティバル参加 市内中心地に新人形会館を建設し、観光客の増員と地元住民の観客を増やし、リピーター客を増やす。それによって地域の地場産業を利用し、更なる活性化を図る。	同左
改善によって期待される効果	営業努力による経営改善に加え、観光客や地元の観客の増が見込まれるなど、増収につながるものと期待できる。	
(現状維持の場合も記入)	仮に 補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 500年間大事に守り続けてきた淡路人形浄瑠璃を未来に繋げていけない。だれでも簡単にできる内容のものだったら何とか民間のボランティア団体の方々に守っていただけると思うが、太夫、三味線、人形と高い技術があるものだけに行政の手厚い保護が必要である。 人形座への補助については、なくなれば営業収入だけでやっていかざるを得ないが、どんなに営業努力をしても現状では非常に厳しいものがある。経費を抑えるべく、座員数を極力減らしてしまうと、人形芝居の上演が出来ないことになり、映像でみてもらうとか、人形解説のみとなり、細々と伝承していくことしかできなくなる。	